

貨物会社の経営体力は着実に付いている！

貨物第2回交渉 計画は下方修正でも、最高益ベースは確保している！
これまでの社員の奮闘に敬意を払い、大幅ベアを求める！

本部は2月27日、「2020年度賃上げに関する第2回交渉を行い、会社からは収入動向および営業日報の説明を受けた。会社説明は「コンテナでは北海道・九州の野菜、食料工業品など順調に推移する一方、紙・パルプ、化学工業品・化学薬品、家電・情報機器など計画を下回りコンテナ・車扱全体では△1億6,900万円」と説明を行った。

交渉では、「年間累計輸送実績」に注目し、収入では99.8%となる中で、①災害はあっても、経営体力はそれを上回っている。収入についても下方修正したが昨年ベースで推移している。②前年から見れば収入は110.1%となっている。③会社は引っ越し需要を取り込むなど3月には需要が上がると思っている。④対計画ばかり持ち出しているが計画自体が高すぎるのではないかと主張した。

これに対する会社の反論は、「現時点では通年での鉄道事業の黒字は難しく、長期債務も増えてきている」に留まっている。また、昨年交渉時に開示されなかった事業計画の提示を含む「団体交渉の在り方」についても質してきた。（詳細は本部電送を参照）

いずれにしても貨物会社を取り巻く環境には、発足時から944億円の長期債務や膨大な老朽設備を継承したという「構造矛盾」があったことは事実である。その責任を社員に転嫁するのではなく、経営者が判断すべき課題である。

国労本部20春闘アピール（要旨）

11,000円の賃上げ獲得！

生活改善に賃上げが必要だ！

社員への投資を最優先に！

《前文略》

今、春闘は、憲法9条の改憲を目論み、戦争へと突き進む安倍政権の暴走を止めさせ、脱原発、民主主義擁護など、多くの課題と結合して闘うことが求められている。「新型コロナウイルス」が中国への渡航歴に関係なく、国内で流行するといわれている中で、感染の最大限の防止策として「3・3 国労中央総決起集会」の中止を余儀なくされたが、本部は国鉄労働組合に結集するすべての組合員とともに2020年春闘を職場・地域から精一杯闘うことを決意するものである。

2020年2月18日

国鉄労働組合本部



第3回交渉3月6日（金）予定

国鉄労働組合・全国貨物協議会